

中学校創作ダンスにおける生徒が持つ抵抗感を払拭するための活動や手立て

19064 坂本 想

キーワード：創作ダンス リズム 身体表現 身近な動き

概要

学校現場での授業実践を通して、創作ダンスが抱える課題の解決や、初期段階の生徒(ダンス経験の無い生徒、創作ダンスに対して苦手意識や恥じらいのある生徒)でも楽しく学習できる授業をするための活動や手立てを検討した。その成果を、生徒の授業内での反応や学習カードと共に記載している。

I 研究の目的

創作ダンスには、教員がどのように授業を展開して良いか分からないという苦手意識があることから、取り組む学校が少ないということや、ダンス経験の無い生徒、創作ダンスに対して苦手意識や恥じらいのある生徒の実態に合わせて授業を展開することが難しく、ダンスの指導書の内容も取り入れやすいものではないという課題がある。本研究ではこれらの課題を踏まえて、ダンス経験の無い教員や生徒双方が取り組みやすい授業を考えることを目的としている。また、今日において、身体言語(身体による表現)を通じて、自己や他者との対話をする「ノンバーバル・コミュニケーション」という非日常的な経験である創作ダンスに挑戦すること自体に価値を見出している。これらの教育的価値を、授業実践を通して検討し、その価値を広く認識してもらうことで創作ダンスに挑戦する学校が増えると考えられる。また、身近な動きやグループ学習を多く取り入れることで、生徒は恥じらいを払拭し、創作ダンスに対して楽しさを覚え、学習意欲が向上すると考えられる。

II 初期段階の生徒に向けた取り組み

1. 生徒が持つ創作ダンスに対する抵抗感

授業を実施する前に、生徒に創作ダンスに関するアンケート調査を行った。「創作ダンスにどのようなイメージを抱えていますか」という質問項目に対して、創作ダンス経験者のほとんどの生徒は「リズムに合わせるのが難しい」や「大変」、「やればやるほど難しい」、「創るのが難しい」といったハードルの高さについて書いていた。創作ダンス未経験の生徒においても「難しそう」や「あまり楽しくなさそう」、「よく分からない」、「特に何も思わない」などといったマイナスなイメージを抱いている生徒が多かった。また、毎時間生徒に書かせていた学習カードに「友達と一緒に活動することで恥じらいがなくなった」や「恥じらいなく体を動かすことができた」という記述があったことから、元々恥じらいがあった生徒もいたと考えられる。

これらのことから、生徒が持つ創作ダンスに対する抵抗感は3つに分類することができる。

- (1) 苦手意識がある
- (2) 恥じらいがある
- (3) 創作ダンス自体をよく分かっていない

上記のような生徒の実態を踏まえたうえで、生徒が楽しく学習し、創作ダンスの教育的価値に触れることが出来る活動や手立てを考えた。

2. 授業実践

(1) 単元名 「 創作ダンス 」

(2) 単元の目標

- ・ダンスに積極的に取り組むとともに、よさを認め合おうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができる。(関心・意欲・態度)
- ・自分の興味や関心に合ったテーマや踊りを設定したり、仲間のよい動きや表現などを見つけることができる。(思考・判断)

- ・多様なテーマから表したいイメージをとらえ、動きに変化を付けて即興的に表現したり、変化のあるひとまとまりの表現にしたりして踊ることができる。(技能)
- ・ダンスは仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージをとらえて自己を表現することの楽しさや喜びを味わうことのできる運動であること、他者とのコミュニケーションを豊かにすることを重視する身体表現であることを理解することができる。(知識・理解)

(3)単元の評価規準

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
①ダンスの学習に積極的に取り組んでいる。 ②お互いのよさを認め合おうとしている。	①自分の興味や関心に合ったテーマや踊りを設定している。 ②発表の場面において、仲間のよい動きや表現を見つけている。	①動きに変化を付けて即興的に表現したり、自分なりの表現をしたりすることができる。 ②身近な動きを組み合わせさせてダンス作品を創り、動くことができる。 ③リズムに合わせて体を動かすことができる。	①学習したことを話したり書いたりすることができる。 ②ダンスの構成や特性等、学習した具体例を挙げることができる。 ③様々な表現の仕方を挙げることができる。

(4)単元について

教材観

ダンスは創作ダンスとフォークダンス、現代的なリズムのダンスで構成されており、イメージを捉えた表現や踊りを通した交流を通じて、仲間とのコミュニケーションを豊かにすることを重視している。創作ダンスでは、多様なテーマから表現したいイメージを捉え、動きに変化を付けて即興的に表現したり、変化のあるひとまとまりの表現にしたりして踊ることをねらいとしている。

加えて仲間と共に踊ることで、自己を表現することの楽しさや喜びを味わうことができ、授業内ではお互いのダンス作品を鑑賞し合い、自己や仲間の考えたことを他者に伝える活動が取り入れられる。

また、本単元では、生徒のダンスに対しての恥じらいを払拭することを1つのねらいとしているため、身近な動きや日常的に使う基本的な動きを中心的に取り入れ、身体を使って表現することの楽しさに気付かせたい。また、感情を表現したり多くの表現技法を経験したりと様々な創作ダンスを通して、「創作ダンスとはどのようなものか」、「自分に合った創作ダンスとは何か」という自分なりの表現方法を見つけたい。そのような取り組みの中で、身体表現の楽しさや身体を通したコミュニケーション等の創作ダンスの教育的価値に気付くための手立てや支援をしていきたい。

また、リズムに慣れていないことやリズム感が無いことが原因でダンスに対して不安や苦手意識を感じている生徒が多いと考えられる。そのため、リズムに合わせて体を動かす活動を多く取り入れたり、単元を通して同じリズムを使って活動を展開させたりする。

ダンスではお互いの動きや役割を認め合い、表現や踊りを通した仲間とのコミュニケーションを豊かにすることを重視している。また、ダンスを通して、身体を使って仲間と交流し、仲間と踊ることや自己を表現することの楽しさや喜びを味わうことを目標としている。加えて、ダンスは様々な文化の影響を受けて発展してきたことや人種及び障害の有無を超えて多くの人々に親しまれていること等のダンスの特性や由来を理解することが望ましいとされている。

創作ダンスの本質として、自分の身体を使って表現することの楽しさが挙げられる。今日のように、言葉言語が広く用いられている中で、身体言語ともいわれる身体表現の難しさを感じながら、自分なりの表現が出来るようになる楽しさに気付いてもらいたい。加えて、お互いの動きのよさを認め合い、仲間と共に1つの創作ダンスを創り上げていくことで喜びを分かち合ったり、達成感を感じたりすることが出来る。

また、単元を通して常にリズムを意識しながら活動し、規則的なリズムや不規則なリズムに合わせて体を動かすことが出来るようになる。

指導観

ダンスに関する知識の理解を基に運動の技能を身に付けたり、運動の技能を身に付けることで一層知識を深めたりする等、知識と技能を関連させて学習させることが重要である。

創作ダンスでは、多様なテーマの例を具体的に示し、生徒が取り組みやすいテーマを選択させる。最初の段階としては、身近なテーマから連想を広げてイメージを出す、思いついた動きを即興的に踊ってみたり、仲間の動きを真似たりする等といった活動を取り入れ、生徒が持っている羞恥心を取り除くことから始める。次の段階では、動きを誇張したり、繰り返したり、動きに変化を付けたりして、ひと流れの動きで表現できるよう声をかけ、ダンス作品にストーリー性を持たせる。このようにダンスの意義や価値を学習しながら自己を表現する授業を展開し、知識を基盤とした学習の充実を図り、ダンスを通して、お互いの動きを認め合うことができることに気付かせたい。

(5)指導と評価の計画(6 時間計画)

時間	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・ダンスの歴史や特性について学ぶ。 ・リズムを使った動きを通してリズムに慣れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンスに関する歴史や特性について学習させた上で、ダンスに取り組ませる。 ・単元を通してリズムを意識させたいため、リズムを使って活動を展開させる。 	<p>【技】リズムに合わせて体を動かすことができる。 ③</p> <p>【知・理】ダンスの構成や特性等、学習した具体例を挙げることができる。 ②</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的で身近な動きを通して、自分のからだの使い方を学ぶ。 ・身近で基本的な動きがダンスの1つの動きになることを学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・恥じらいがある生徒が多いと考えられるため、基本的な動作や日常的な動作から取り組ませる。 ・動くだけではなく、「とまる」という動作によって、めりはりをつけることも創作ダンスの1つの動きであることを学習させる。 	<p>【関・意・態】ダンスの学習に積極的に取り組んでいる。①</p> <p>【知・理】学習したことを話したり書いたりすることができる。①</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・人や新聞紙の動きをよく観察して、動きを読み取り、自分で表現する。 ・ペア又はグループでの様々な動きを通して、仲間の良い動きや自分と異なる動きに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・恥じらいがある生徒が多いと考えられるため、レクリエーション活動を取り入れる。 ・その場だけではなく、出来るだけ広く空間を使うように伝える。 	<p>【関・意・態】お互いのよさを認め合おうとしている。②</p> <p>【技】動きに変化を付けて即興的に表現したり、自分なりの表現をしたりすることができる。①</p>

4	<ul style="list-style-type: none"> ・集団での動きの名称を学習し、実際にクラス全員で挑戦する。 ・「集団を意識する」とはどのようなことであるか、考えながら取り組む。 ・集団ならではの表現技法による効果を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス全員で1つの活動に取り組ませることで、集団を意識させる。 ・動きが揃わない原因を生徒に考えさせたり、どうしたら動きが揃うのか考えさせたりすることで、「集団を意識する」ことに結び付ける。 	<p>【関・意・態】ダンスの学習に積極的に取り組んでいる。①</p> <p>【知・理】様々な表現の仕方を挙げることが出来る。③</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・決められたリズムの中で、様々な動きを組み合わせる。 ・グループ毎に、お互いの良さを認め合ったり、異なる動きを見つけたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入で、教員が考えた動きの例に取り組むことでイメージを掴ませる。 ・作品を創作する上で、幾つかのテーマの候補を挙げる。 ・作品を鑑賞する際の観点を明確にする。 	<p>【思・判】自分の興味や関心に合ったテーマや踊りを設定している。①</p> <p>【技】身近な動きを組み合わせ、ダンス作品を創り、動くことができる。②</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の創作活動で感じたことや考えたことを踏まえて、再度グループで作品を創る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ストーリー性を意識させる。 ・作品を鑑賞する際の観点を明確にする。 ・自分達の良かったところや他グループの良かったところを見つける場を設定する。 	<p>【関・意・態】お互いのよさを認め合おうとしている。②</p> <p>【思・判】発表の場面において、仲間のよい動きや表現を見つけている。②</p>

(6)指導内容【2/6 時間目】

①ねらい

身近な動きをアレンジしてみよう。

②ねらいに迫るための手だて

「歩く」「走る」「跳ぶ」等といった身近で基本的な動作を通して、からだの使い方を生徒に学んでもらうと共に、からだを動かすことの楽しさを感じてもらおう。また、それらの活動にレクリエーション要素を加えることで、楽しみながら学習することが出来ると考えられる。しかしながら、ただ活動に取り組むだけではからだを意識しないため、適切なタイミングで留意点を生徒に伝えていくことが望ましい。加えて、身近な動きであっても自分なりにアレンジを加えることで、ダンスになり得ることを伝え、生徒に実感させる。

③指導過程

段階	学習活動 (○：発問, 質問)	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入 (7分)	<p>1. 準備体操 体操隊形に広がり, 体育係がステージの上 で先導しながら行う。 (アキレス腱を伸ばす, 前屈をする等)</p> <p>・リズムに合わせて体を動かす。</p> <p>2. 号令 出欠確認 本時の説明</p>	<p>・「1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8」と 声を出しながら取り組む</p>	<p>・前時で行ったリズムに合わせて, 体全体を動かす活動を復習として行う。</p> <p>・服装が乱れていないか確認をする。</p> <p>・声が通るように生徒を座らせて, 本時の説明をする。</p>
展開 (35分)	<p>3. 集合する</p> <p>・ねらいを把握する</p> <p>・前時の復習</p> <p>○身近な動きにはどのようなものがありますか。</p>	<p>・「歩く」「走る」「跳ぶ」</p>	<p>・ねらいの説明をする。</p> <p>・身近な動きをアレンジすると, ダンスの動きになることを伝える。</p>
身近な動きをアレンジしてみよう。			
	<p>4. 「歩く」をベースとした活動に取り組む(歩く+α)</p> <p>・歩きながらホイッスルに合わせて動きを変化させる。</p> <p>①歩く—止まる ②歩く—反対方向に歩く</p> <p>5. 「走る」をベースとした活動に取り組む(走る+α)</p>	<p>・「まっすぐ歩こう」</p> <p>・「くねくね歩いてみよう」</p> <p>・「態勢を変えながら歩いてみよう」</p> <p>・「ぴたっと止まるのは難しいな」</p> <p>・「歩くよりも走るほうが止まったり反対方向に行ったりするのが難しい」</p>	<p>・最初の段階として, 基本的で比較的簡単な動きを取り入れることで, 恥じらいを取り除く効果が期待できる。</p> <p>・ぶつからないように, 周囲に目を向けることを伝える。</p> <p>・勢いをつけすぎると怪我をする可能性が高くなるため, 軽く走るように喚起する。また, 距離をあけて走るように伝える。</p> <p>・よい動きをしている生徒の動きを周囲の生徒に伝える。</p> <p>・ぐらぐらする生徒には, めりはりを意識させる。</p>

	①走るー止まる ②走るー反対方向に走る 6. リズムを覚える。 ・「 8×2 , 4×2 , 2×2 , 1×4 」のリズムを習得する。 7. 「跳ぶ」をベースとした活動に取り組む ・リズムに合わせて, 前・後・右・左にジャンプ	・「これまでは 8×2 でやっているから, 他のリズムは難しい」 ・「順番を覚えるのが大変」	<div> ダンスの学習に積極的に取り組んでいる。 【運動への関心・意欲・態度】 </div> ・手拍子を使ってリズムを習得する。 ・教材をホワイトボードに貼り, 説明をする。 ・床のラインを跨ぐようにすると動きやすい。
終末 (8分)	8. 集合する。 本時を振り返る。 9. 学習カードを記入する。 10. 次時の予告 怪我の有無を確認 号令	・「疲れた」「楽しかった」 ・「ダンスっぽくなかったな」	・生徒を座らせて本時を振り返る。 ・学習カードを配布する。 (書きやすいように自己評価の観点を設ける。)
			<div> 授業を通して学習したことを話したり書いたりすることができる。 【運動についての知識・理解】 </div>

④評価

	運動への関心・意欲・態度	運動についての知識・理解
本時の評価規準	創作ダンスの学習に, 積極的に取り組んでいる。	授業を通して学習したことを話したり書いたりすることができる。
十分満足できると判断される生徒の姿	仲間と協力しながら, 学習に積極的に取り組んでいる。	日常的で基本的な動きであっても, ダンスになり得ることを踏まえた上で, 自分の考えを話したり書いたりすることができる。
支援が必要と判断される生徒への手だて	恥じらいをなくすために, 簡単な動きから取り組ませ, 少しずつ動きに変化をつける内容にする。	動きをアレンジする際の例を提示したり, 普段行っている動作と違うところを挙げさせたりする。

⑤板書計画(ホワイトボード)

ダンス

ねらい：身近な動きをアレンジしてみよう。

<復習>

現代的なリズムのダンス

創作ダンス

フォークダンス

♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ × 2
 ♪ ♪ ♪ ♪ × 2
 ♪ ♪ × 2
 ♪ × 4

3.授業で使用したワークシート

資料1:学習カード

【創作ダンス 学習カード】

年 組 氏名 _____

○自己評価表

A:よくできた B:まあまあできた C:あまりできなかった

評価の観点	①	②	③	④	⑤	⑥
積極的に授業に取り組むことができた						
仲間と協力して取り組むことができた						
恥ずかしがらずに体を動かすことができた						
動きにめりはり、変化を付けることができた						
イメージしたことをからだで表現できた						

○本時の振り返り(本時で学んだことや気づいたこと、感想、反省点等を書いてください。)

①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	

資料2:鑑賞カード

保健体育科ワークシート ～創作ダンス～

年 組 氏名 _____

ねらい：これまでの活動を踏まえて、自分たちの作品を創ろう。

○教員の例 テーマ：花が咲く様子

※(座った状態で手を振る)⇒4(しゃがんだ状態で歩く)
 ⇒2(大きく手をまわす)⇒1(その場で拍手しながらジャンプ)

テーマ1

8() ⇒4()

⇒2() ⇒1()

発表の前に、「これから〇組の発表をします。
 テーマは〇〇です。工夫したところは……」
 と大きな声で情に伝えて下さい！

○鑑賞活動に向けて

- ・他グループの発表を鑑賞する際は、手拍子で場を盛り上げよう。
- ・「他グループの良さ」や「自分たちのグループとは異なるところ」、「驚いた表現や動き」に着目してみよう。

組	テーマ	良かったことや気づいたこと

資料3:授業内容をまとめたワークシート(表)

☆創作ダンスを振り返って

1. ダンスについて学習したうえでリズムに慣れよう。

ダンス ①現代的なリズムのダンス

(変化のある動きを組み合わせて、リズムにのって全身で踊る)

②フォークダンス

(日本や他国の踊りの特徴を捉え、特徴的なステップや動きを用いて踊る)

③創作ダンス…「自分たちが伝えたいことを自由に創作し、カラダで伝える」

(多様なテーマから表現したいイメージを捉え、身体的に表現したり、

変化のあるひとまとまりの表現にしたりして踊る)

手の動きと足の動きがばらばらなリズムジャンプ(リズム感を身につけるため)

「8・8・4・4・2・2・1・1・1・1」のリズムを習得

2. 日常的で基本的な動きを通して、自分のからだの使い方を知ろう。

歩く・とまる、反対方向に歩く(歩き方工夫する)

走る・とまる、反対方向に走る

縦1列で先頭(リーダー)の真似をする(全員がリーダーで体験)

跳し(ジャンプ)・

8×2(右4左4右4左4) 4×2(前4後4) 2×2(A,B交互に) 1×4(上4)

ダンスに関する調音(音階)

ダンスの種類や特性を守り、実際のダンス様子を鑑賞する

3. 仲間や物の動きを見て、自分のからだで表現してみよう。

新聞紙の動きを真似する

グループで動きを真似る、反対の動きをする

対象の動きを使って作品を創ってみよう。

上下・左右・前後・大小・高低(空間)、強弱・動静(エネルギー)、早遅(時間・リズム)

歩く・止まる(静止も動きの1つ)

歩く・反対方向に歩く

<教員の例>

歩く・反対方向に歩く(高低のアレンジを加える)

4. 集団を意図しながら、自分のからだで表現してみよう。

集合ゲーム・整列ゲーム

全体で動きをそろえる・ユニゾン(動きをそろえる)、コントラスト(対比させた動き)

カノン(前後がずらして、同じ動きをする)



簡単な動きでも組み合わせるとダンスになる。
 日常的な動きもアレンジするとダンスになる。

物の動きを捉えて、自分のからだで表現することは難しい。

「集団を意図する」とは、
 どういうことか？

(裏)

言葉を使わずにコミュニケーションをとってみよう。

からだでじゃんけん

ジェスチャーゲーム

サイレントバースデーゲーム

5. 決められたリズムの中で、動きを組み合わせてみよう。

8・8・4・4・2・2・1・1・1・1

1このリズムを基に、何ごとに創作ダンスを考える

テーマを決めて、そこからイメージした4つの動きを組み合わせる

(場を広く使う、ストーリー性を持たせるとの)

6. 前回の活動を振り返り、自分たちの作品を創ろう。

前回の自分たちの動きを動画で確認した上で、

1つ1つの動きにこだわりを持って創作し、発表する

めいめい付けたり、動きをどうえたりすることで、集団としてまとまりが出てくる。

これまでに学習した表現技法や授業の中で身につけた動きを使ってダンスを創作しよう。

創作ダンスお疲れ様でした！

現代的なリズムのダンスも一緒に頑張りましょう！！

4. 発表会の様子

【例】テーマ：ラーメン

8 拍子×2 (麺が茹でられている)



2 拍子×2 (ラーメンが完成)



4 拍子×2 (麺が入っている器に具材が乗る)



1 拍子×4 (ラーメンを食べる)



わずか 2 時間弱の創作活動であったが、授業で習得した表現技法を取り入れながら、ストーリー性のある作品を創ることが出来ていた。

Ⅲ 研究の成果(以下、学習カードや振り返りシートから抜粋した生徒の言葉を【】で括る)

①リズムの重要性

一般的には曲に合わせてダンスを創る創作ダンスだが、曲にはリズムがあり、それはダンスに関わる上で、土台となる要素である。リズムの習得を疎かにすると、後々の遅れやつまずきにも繋がる。また、リズムに対して不安感を抱いている生徒が多い傾向があるため、リズムに慣れることや「リズムの習得」を目的とした授業を単元の導入として 1 時間目に実施した。単元を通して基本的には同じリズムを使い、その馴染みのあるリズムに合わせて、創作活動や発表会を行ったため、「ダンス作品を創る」ではなく、表現したいテーマのもとで「動きを組み合わせる」という認識を生徒に持たせ、よりリズムを意識したり、動きがそろったりすることに繋がった。また、資料 4 で示しているように、初期段階の生徒に対しては、曲ではなくリズムを使った創作活動に取り組ませることが望ましいと考えられる。

資料 4

授業を受ける前は「オリジナルも低いし、もめたりするんだろ？」と思っていましたが音楽ではなく手拍子だったからか、楽しい雰囲気であつたし、それぞれの班の豊かな個性や想像力のオリジナルティが加わった素敵な発表会になりました。

資料 5

ダンスの授業を始める前は観るのは好きだったけれど、創ったり踊ったりするのはあまり好きではありませんでした。しかし、身近な動きを使ってダンスにするというのを行ってとても楽しいと感じました。また他の班のダンスを観てこういう考えもあるのだけと思いました。授業が

②「ダンスを身近に感じる」活動

ダンスに対するイメージについて生徒に聞いてみると、【動きが激しくて、難しそう】というようなハードルの高さを感じている声が多かった。そのイメージを払拭することや、運動が苦手な生徒でも楽しく、ダンスを身近に感じる内容にするために、単元を通して日常的で基本的な動きを多く取り入れた。

ダンスを身近に感じることで、ダンスを意識しながら日常生活を過ごすことにつながり、創作活動のヒントになると考えられる。日常生活の中でも、授業で行った動きを練習している生徒や、ダンスになり得る動きを見つけている生徒の姿も見られたことは成果であった。その一方で、身近な動きが多い授業内容では、創作ダンスの持つ「非日常性」を生徒が感じにくいのではないかと考えたため、日常的で基本的な動きをリズムに合わせたり、自分なりにアレンジしたりという活動を取り入れた。【どんなに身近な動きでもリズムに乗せるとダンスになり、何か特別でかっこいいものに見えてすごい】という生徒の声もあったように、日常的で基本的な動きであっても創作ダンスを構成する1つの要素になり得ることを生徒に感じさせる授業になった。また、資料5～資料8の生徒の言葉からも、身近な動きを多く取り入れたことが効果的であったと考えられる。

資料6

踊る面白さに気付いたら、また、歩いたりジャンプしたりという身近な動きだけでも、ちゃんとダンスが創れるということも命がけ、ダンスに対する親近感も出てきて、ダンスの楽しさを実感することができました。

資料7

元々、ダンスなどの運動はあまり得意ではなかった。ダンスは嫌いというイメージだったが、創作ダンスは目の前の動きのアレンジだから、運動神経の悪い僕でも簡単に、面白いうイメージに変わった。

③生徒が生み出す「多様な表現」

創作ダンスの中で出てくる人それぞれの動きは、「差」ではなく「違い」である。同じテーマのもとで表現したり、同じ対象を見て体を動かしたりした場合でも、様々な種類の動きが生み出される面白さがある。そのような「多様な表現」に気づき、身体表現の楽しさ(資料9～12)やダンスを観ることの楽しさ(資料13)を感じている生徒もいた。「多様な表現」を通して、創作ダンスの授業の枠にとらわれない、互いに認め合う力を身に付けてほしい。

資料8

私ははじめ、ダンスに興味がありませんでした。少し、興味を持つことができた。なぜなら、もとより私はダンスというものがあまり身近に感じられて、ダンスというのは、少し遠い世界のような感じでした。授業を通して、少し、身近に感じられるようになった。発表する内容で、少しわけておいたりして、どうなるかな、と悩ましてしまったけれど、最終的におどろきが出てきて、達成感がありとても楽しかったです。

資料9

ダンスの授業前は、ダンスに対して、難しそうで少しはずかしいというイメージを抱いていましたが、授業後は、自分達の表現したいことを動きにするのが楽しいと思うようになりました。

資料11

授業前は、ダンスを踊って何が楽しいのかわからなくて正直嫌だったけど、授業で踊ることの楽しさを知ることができた。ダンスをつくるときに

資料10

創作ダンスと言っててもたくさんの表現を使えば表したいものをしっかり想像できるのだと思いました。どういふことをすれば表したいものに近づけるかを考えて、そのために動きにメリハリや強弱をつけるなど、とにかく工夫したいで何でもできるということが良いところだと気づきました。僕はテーマが「あるダンス

資料12

私は、もともとダンスはすごく好きで、授業後の今はもっと好きです。なぜなら、「創作ダンス」という新しい分野のダンスに挑戦できて、あるテーマを表現するために、体を動かしたり集団で形をつくらなければならないことが、「こんなにも楽しいことなんだ！」と気付かされました。動きの速さ・リズム・形・音などの細かいことが、ごくわずかにちがっただけで、雰囲気はガラッと変わり、いろいろアレンジできるので、どんなことでも体を使って表現できると思います。

資料13

ダンスを観る. ことについては元々少し好きだったが、授業でのダンスの発表会で他の班が自分たちで考えられなかったような工夫を見つけたりで、面白いと思い、好きになることができました。続いてダンスを「創る」ことについては、

加えて、一般的な型にはめた授業ではなく、生徒の実態に即した授業を展開することで生徒の気持ちや行動に、良い方向への変容が見られるようになった(資料 14～16)。運動が苦手な生徒でも楽しく活動出来たことや、曲が無い場合でも十分に創作ダンスが成立したことは大きな成果であった。

資料 15

資料 14

少しだけダンスに対するイメージが変わりました。前はたまたま動くだけ?と聞いていたが、1つの意味がある難しい重みを感じるものと今は思っています。なぜそう変わったのかというと自分で実際にやってみると楽しく、そのように感じたからです。(体が慣れないもので...)

資料 16

ダンスのイメージ 難しいというのは変わりましたが、これは楽しいというのがわかりました。自分でできるしやる前から諦めるのではなく、実際にやってみるとわかることあるのだから、もうやるべきだと思いました。

ダンスに対して、楽しいと感じるようになった。小学校でダンスをしたときは、早いテンポについていけなかったり、振り付けをまちがえてしまうことがあったり、自分は「下手」とか思っていた。でも、今回の授業で、新聞の動きをまねたときに、大きく、大げさに動くことが大切だと感じた。また、普段何気なくしている動作でもダンスにならせたのが分かった。今回の創作ダンスを通して、踊っている自分が楽しめば、みている人も楽しくしてくれるのではないかと、思った。今までの私は、踊ることも、好きじゃないし、と考えるだけだったから、小さく、格好の悪いダンスになっていたのかもしれない。これから自分が楽しいという気持ちを大切にしたい。

IV 研究成果の学校教育における位置づけ・意義、応用性、期待

本研究を通して、ダンスに対して抵抗感のある生徒にも創作ダンスの教育的価値を認識させ、創作ダンスに取り組む学校も増えることが期待される。また、「多様な表現」を「差」ではなく「違い」と捉える創作ダンス特有の価値を経験することで、互いを認め合う力が育まれる。生徒にその価値を感じさせる活動や手立てを、今後実践を通して検討していきたい。

V 参考文献

- ・佐分利育代、広兼志保ら(1994)『ダンスの指導実践に関わる現職教員の意識—中学校を対象として—』鳥取大学教育学部研究報告
- ・中村恭子(2009)『中学校体育の男女必修化に伴うダンス授業の変容—平成19年度、20年度、21年度および24年度の年次推移から—』日本女子体育連盟学術研究 26:1-16